

# 学生が挑む！

## 市民の疑問解決プロジェクト ～最先端の治療法を届けるために～

Innovation for NEW HOPE\* 学生アンバサダー

名城大学薬学部3年 可児 沙也伽

名城大学情報工学部3年 波田 朋希



# 学生が挑む！市民の疑問解決プロジェクト ～最先端の治療法を届けるために～

学生が、体験プログラムを通じて日本の医療課題や最先端の治療法を学び、市民に伝える資材を制作  
(2025年3月～11月、7大学24名の学生が参加)

体験・学び

資材制作

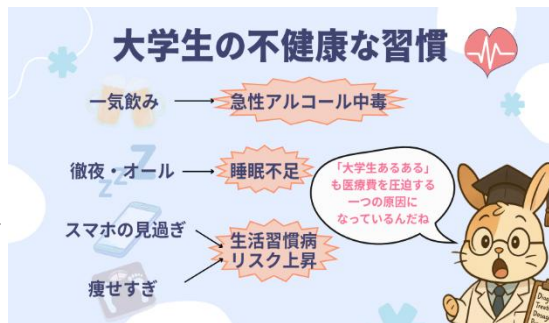
情報発信



親子世代  
対象



ショッピング  
モールでの  
イベント



大学生対象

大学の学園祭



- ✓ 製薬会社の研究所見学
- ✓ 患者さん家族の講演
- ✓ 薬価制度・医療制度に関する講演
- ✓ グループディスカッション、他

6グループに分かれ、それぞれが情報を  
伝えたい対象に合わせた資材を制作

各資材の対象に合わせた機会  
で、学生自らが情報発信





# 親子世代向け資材 資材内容：商業施設向けすごろく

名城大学薬学部3年 可児 沙也伽

# 活動内容

作成した資料の対象

## 子供(親子連れ)

- 現在の医療問題によって影響を受ける世代のひとつ=子供世代
- 子供世代に医療問題・医療が届くまでの過程を知ってほしい
- 情報の届きにくい方々にも身近な施設(商業施設)でのイベントであれば、医療問題についての情報を受け取りやすい

# 活動内容

作成した資材:大型すごろく

超ECO祭※@イオンモールKYOTO

※環境と医療のエコを題材とした市民向けイベント



6 0Pt

マネっこおくすりができた！

あたら 新し 新し おくすりを マネするのを 禁止する 「特許」 期間が 終わると  
 マネっこおくすりの 「ジェネリック (＝後発品)」 が でてくるよ  
 薬価が ずっと 安いから みんなが 払う 医療のお金 が 少なくなるよ  
 マネされた元のおくすりの 薬価も 下がるんだ

Innovation for NEW HOPE

新しいおくすりとしてのお役目はこれで終わりだね...

3 0Pt

おくすりのタネをさがせ！

天然のもの (植物・動物・微生物など) や  
 人工のものを材料にしてつくられたものの中から  
 良いものを探そう

Innovation for NEW HOPE



薬の届くまでの過程(研究→治験→承認→薬価)を参加者に対話とすごろくを通じてわかりやすく伝える

# 活動内容


## <ミニゲーム>

## <持ち帰り用資材>

クイズに挑戦! ② **正解したら+5Pt!**

もんだい：  
 新しいおくすりの候補がヒトにとって安全かどうか  
 しらべるとき、研究者が使うのはどれだ？

A. 細胞  
 B. ぬいぐるみ  
 C. お菓子




Innovation for NEW HOPE  
©2025 Innovation for NEW HOPE

クイズに挑戦! ②

こたえ：  
 新しいおくすりの候補がヒトにとって安全かどうか  
 しらべるとき、研究者が使うのはどれだ？

A. 細胞  
 B. ぬいぐるみ  
 C. お菓子

おくすりおくすりがヒトヒトにとって安全あんぜんかどうか、動物や細胞せうぼうでチェックするよ



Innovation for NEW HOPE  
©2025 Innovation for NEW HOPE



**おくすりほかせ にんていしょう**

「おくすりおくすりがみんなにとどくまで」をけんきゆうし「おくすりほかせ」になったことをにんていします

おくすりレフジャーより  
©2025 Innovation for NEW HOPE

# 相手の心情や行動の変化

参加後アンケート(思いの木)より抜粋



・くすりができるまでにこんなに時間がかかるなんて知らなかった。

・プラセボ、ジェネリック等、新しく知る言葉がたくさんあった。

・医療問題について知ることが出来た。

・(高齢者)普段使用している薬をもっと大切に使用しようと思った。

## <対話を踏まえて>

・娘が真剣に話を聞いている姿を見れた。家に帰ったら今度は娘からすごろくの内容について聞いてみようと思う

# 活動を通じての自身の学び/心情や行動の変化

## <Innovation for NEW HOPEの活動を通じて>

- ・医療問題について新しく知ることが多くあった

⇒“他人事”ではなく、“自分事”化 伝える側になることへのモチベーション向上に

## <資材作成・発表(大型すごろく)を通じて>

- ・参加者と距離が近い

⇒自分の思いや伝えたいことを熱量を持って伝えられた

- ・医療問題や薬が出来るまでの過程を知らない人が多い

⇒伝える活動の重要性



# 大学生向け資材

## 資材内容：動画・クイズ・アクションプラン

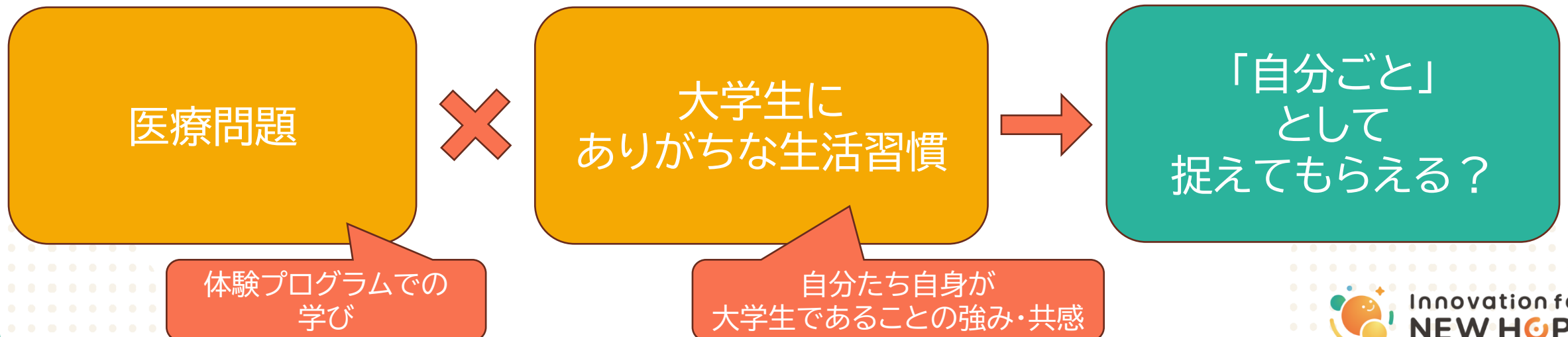
名城大学情報工学部3年 波田 朋希

# 活動内容

制作した資料の対象

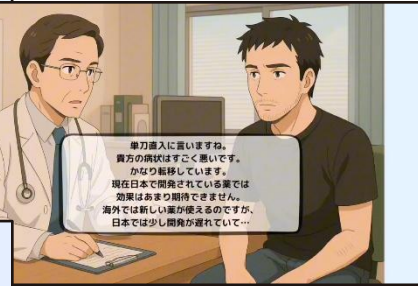
## 大学生

- 「自分たちこそ、医療に関する様々な問題を知ることが大切なのでは？」
- 「自分たちらしい方法で共感を引き出せないか？」
- 「現状の大学生には医療の問題に関する問題を知る・考える機会がそもそもないよね」
  - だけど、医療にお世話になる場面はある だからこそ「自分ごと」化できないか？



# 活動概要(一部)

- 茨城大学 教育学部 養護教諭養成課程 1年生を対象とした講義
- 茨城大学の石原研治先生から授業の枠をご提供いただき、実現



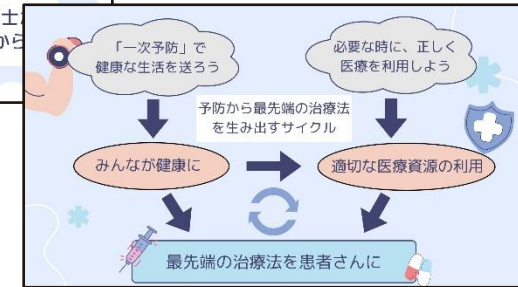
Q2 必要としている薬が「届かない」患者さんがいるのはなぜ？

①薬の開発が遅れているから

②お医者さんが薬を処方しないから

③まもりソ博士が飲んだから

④まもりソ博士薬を隠したから



## 相手の心情や行動の変化

講義を聴いた学生へのアンケート(抜粋)

“薬が貰えることは当たり前ではない”  
“これまで自分が患った病気や症状では薬は必ず貰えていたけれど  
薬を貰えるのは当たり前じゃないんだ”

“自分の生活習慣を見直せただけでなく、将来養護教諭になった際に  
子どもたちに指導すべきことを見つけられ、視野が広がった”

<ディスカッションを踏まえて>

Q.医療問題は多岐にわたるが、養護教諭になったら何を伝えたい？

A.いきなり医療問題を子どもたちに伝えるのは難しいけれど  
養護教諭として子供たちに「歯を守ること」「痩せすぎが健康に与える影響」を伝えたい

単なる「知識の獲得」で終わるのではなく  
⇒行動変容・「自分ごと」化・自分の将来に照らし合わせて考えるきっかけ

# 活動を通して学んだこと

学生がこの活動を行う意味

- チーム構成
  - 薬学部
  - 国際商学部
  - 経済学部
  - 情報工学部

普段学んでいる内容が違っても  
様々な角度から医療問題を  
考えることはできる！

分野や経験のバックグラウンドが  
違うからこそ  
それぞれの目の付け所が違う！

薬の話・お金の話・  
健康の話...  
⇒医療問題は多岐にわたる

だからこそ


大学生が  
集まって取り組むことに  
大きな意味がある！

## 活動を通して学んだこと

個人として感じたこと・学んだこと・活動中に思っていたこと

- 新たな治療法・未開発の薬を求めて待つ患者さんが実際にいらっしゃる
  - 患者さんとの対話
- 患者さんだけが声を上げて、制度や仕組みを変えることは非常に難しい
  - 希少疾患
  - 新しい治療法
- 結果がよくなるかどうかだけでなく、考え、声を上げることに意味がある
  - 大人だけでも難しい
  - 学生だけでも難しい
  - だからこそ…

⇒「考えよう」と思う人を一人でも増やしたい！



# わたしたちの想い

## ■ 学生が挑む！市民の疑問解決プロジェクト」に参加して…

一見難しそうな「医療」にまつわる  
様々な課題に触れる機会を作ることができた

最先端の治療法や医療問題について知ることが出来た  
→医療や医薬品に関わる職へのさらなる興味に  
一般市民と医療との”架け橋”的存在に  
→医療問題について知っている人を一人でも増やすことが出来た  
”伝え方”の工夫を通じて自分自身の力にもなった

医療全般に関心を持つ人を増やすことができる

→さらに、根拠に基づいた情報を用いた対話を通して、その人たちが正確な知識を持つことができる

個人)「与えられた医療・治療をただ受ける人」からの脱却

市民)正確な知識に基づいた世論の形成が活発化される→法整備や迅速化の原動力に

医療について興味を持つ子供が増える

→医療に興味をもってもらうことで”医療系研究職”を将来の夢に